

「若狭湾里山自然体験塾」(R2.11.28(土)～11.29(日))

**体験の風をおこそう**

**11/28(土)～11/29(日)**  
**小学校4年生～6年生 18名募集!**

申込〆切  
 11/13  
 (金)

令和2年度 国立若狭湾青少年自然の家 教育事業

**若狭湾里山自然体験塾**

若狭湾青少年自然の家の奥には、ゆたかな森が広がっています。  
 1日目は、森歩きや沢の生き物を観察しながら、海と山との繋がりや森の役割などについて考えます!クリスマスリースに飾りつける木の葉や葉っぱなども採集しよう!  
 2日目は、サツマイモの取かく体験。取かくしたサツマイモを使ったカレーづくりにも挑戦!  
 季節は秋から冬へとうつりかわるとき、冬じたくをはじめ森の声をききながら、ゆっくり1泊してみませんか。

主催：国立若狭湾青少年自然の家  
 後援：福井県教育委員会(申請中)  
 小浜市教育委員会(申請中)  
 協力：かみなか農業会

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立若狭湾青少年自然の家  
 〒917-0198 福井県小浜市田島区大浜  
 TEL: 0770-54-3100 / FAX: 0770-54-3023  
 E-Mail: wakasawan@niye.go.jp HP: https://wakasawan.niye.go.jp/  
 担当: 小川(おがわ)・高木(たかぎ)・加藤(かとう)

活動内容は裏面に記載!

◆目的

若狭湾の自然の中で思いっきり活動することを通して、自然の素晴らしさを味わい、自然への興味や理解を深められるようにすると共に、自然に対する豊かな感受性や環境に対する関心を高める。

◆参加実績(計17名)

小学4年生	13名
小学5年生	1名
小学6年生	3名
小浜市	4名
若狭町	6名
敦賀市	4名
おおい町	1名
高浜町	1名
京都府舞鶴市	1名

◆プログラム<1泊2日>

【1日目】

- ① はじまりのつどい
  - ・所長挨拶、スタッフ紹介、日程確認
- ② アイスブレイク・テント張り
  - ・心と体をほぐす
  - ・協力してテントを張る
- ③ ハイキング・沢歩き
  - ・歩きながら若狭湾の立地、森の役割について考える
- ④ クリスマスリースづくり
- ⑤ 生き物観察
  - ・食物連鎖から海と森との繋がりについて考える
  - ・採集した生き物を顕微鏡で観察

【2日目】

- ⑥ ビーチコーミング
  - ・漂流物から海的环境について考える
- ⑦ 収穫体験
  - ・里山と人間との繋がりについて考える
  - ・人参、ブロッコリー、サツマイモを収穫
- ⑧ 野外炊飯
  - ・収穫した野菜を使ってカレーを作る
- ⑨ おわりのつどい



◆成果

- ・アンケートの結果からも、「とても楽しかった」「いろいろなことを教えてもらえて良かった」「いろいろな体験が出来て良かった」など、全員から満足した（100%）という回答が得られ、事業としては目標が達成できた。
- ・SDG's 対応の活動プログラムを研修支援団体に提供するためのモデルとすることができた。
- ・参加者は、検温や施設のコロナ感染拡大防止対策を理解した上で活動することができた。



◆参加者の声

- 食物連鎖のことで、太陽→森→海→人といろいろなつながりがあることがわかった。葉っぱから食物連鎖が始まると聞いていてびっくりしました。
- 山と海が繋がっていることも分かったし、海に流れるごみを減らしたいです。
- 里山の農業はみんなすごがんばっていることがわかりました。僕も自然が多いところで農業をしてみたいです。
- 海にゴミが落ちてると、海の生き物がそのごみを食べて死んでしまうから、これからもごみは捨てないようにしたいです。
- みんな植物にも命があることがわかって、これから木を大切にしたいし、自分で出来ることをやってみたいと思った。
- ◇前に比べると、進んで野菜を食べるようになりました。（保護者）
- ◇普段の友達が居ない活動に参加しても、たくさん新しい友達が増えて楽しいと自信を付けたようです。（保護者）
- ◇子供達だけのお泊まり会があると自立する自信が付くのでとても気に入っています。（保護者）
- ◇コロナの影響でいろいろ我慢したりしていましたが、キャンプに参加できてとてもスッキリしたようで、いい顔になりました。（保護者）



◆事業運営のツボ・工夫・反省

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策
  - ・活動中は、随時アルコール消毒を実施、1日に2回検温を実施した。
  - ・館内はもちろん、屋外の活動であっても必ずマスクを着用した。
  - ・テントで宿泊する人数を定員の1/2とした。
  - ・移動の際のバスでは、窓を数センチ開けて常時換気をし、マスクを着用して、会話をせずに乗車した。
- 課題解決に対するアプローチ方法
  - ・若狭湾の豊かな自然の中で、SDG's 目標15を視野に入れた活動を取り入れるべく、白井先生を招聘し、森林環境に目を向けると共に、海と森との繋がり、人と自然との共存を考えるプログラムを実施した。
  - ・収穫体験をする中で、持続可能な生産と消費について考える機会を作るため、かみなか農楽舎と連携し、里山と人間との繋がりについて考えるプログラムを実施した。
  - ・ワークシートを活用し、感じたこと、考えたことをまとめさせたが、それをもとにして、「主体的・対話的で深い学び」となるような語り合える場の設定ができると良かった。



◆事業運営費	合計	131,344円
講師謝金・旅費（2名）		60,366円
ボランティア旅費等（2名）		15,480円
消耗品費		3,049円
通信運搬費		1,932円
印刷費		12,624円
活動費		17,000円
教材費		17,306円
参加者保険代		3,587円

